



きくもととパワー

きくすいもとまち幼稚園で札幌市研究実践園として一年間取り組んでまいりました研究について簡単に御報告いたします。

札幌市立きくすいもとまち幼稚園の研究

研究主題 質の高い幼児教育の実現に向けて～つながる ひろがる 札幌市の幼児教育～
 副主題 白石区／厚別区 ～遊びを通した幼児期の学びとは～
 研究の重点 一人一人が自分の力を発揮するための、環境の構成と教師間の連携の在り方～年齢の枠を越えた関わりを通して～

＜事例研究＞ 園内研究や実践発表会などで、保育について話し合いました。

《事例の話し合いより》①

一人一人が自分の力を発揮している姿と深い学びについて



《事例の話し合いより》②

環境の構成と教師間の連携について



このような話し合いを積み重ねました!

＜成果＞

1. 一人一人が自分の力を発揮している・発揮することに繋がる姿とは

(◎は異年齢との関わりの中での姿)



年少3歳児

- ・安心感をもつ ・繰り返す ・楽しむ ・自分なりにやってみる
- ◎“安心できる存在”がたくさんいる ◎“やってみよう”ことをすぐにできる



年中4歳児

- ・“これをしてほしい”という思いをもつ ・やりたいことに納得いくまで遊び込む
- ・“友達と一緒に”が楽しい
- ◎憧れの気持ちをもち、まねたり取り入れたりする
- ◎相手に喜んでもらえる経験をする



年長5歳児

- ・経験してきたことを活かす ・試行錯誤する
- ・自分たちで話し合いながら遊びを進める
- ・友達とイメージや目的を共有し、協力する
- ◎自信をもつ ◎相手に寄り添う ◎相手のことを意識して、思いを巡らせる

どの学年でも...

安心感・満足感・意欲・自信が

“一人一人が自分の力を発揮する”原動力となる

2. そのような姿を育てるための環境の構成・教師の援助、教師間の連携とは

環境の構成・教師の援助

- 一人一人の思いを大切にし、やってみたいことをすぐに実現できるようにする
- イメージが実現できるような素材や用具を用意したり、場を保障したりする
- すぐに答えを伝えず、自分で考えていけるようにする
- 失敗感がない、自己肯定感がもてるような言葉がけをする
- 一緒に楽しむ、任せて見守るなど、ねらいに応じて教師の援助の仕方を考える
- 異学年の遊びが見えるような場の作り方を意識する
- 力が発揮できるような遊びや素材を用意する

教師間の連携

- 教師間で各学年のねらいや実態を共有し、同年齢・異年齢の中で育つことを見極める
- 好きな遊びの中でお互いの遊びに入る時も、ねらいを伝え合いかわり方を判断する
- 教師自身が他学年に行き来し、関わりが自然に生まれるようにする

＜次年度の研究で大切にしたいこと＞



実態だけに合わせるのではなく、何を経験しているか、何を学んでいるかを見取り、教師のねらいを明確にし、教師間で共有していく。

個の充実を大切にしながら、友達との生活の中で、互いに育ち合うための環境の構成、教師間の連携について明らかにしていく。

厚別区のアつべつきた幼稚園と今年度の研究のまとめについて話し合いました！

今年度は同じ“研究副主題”“重点”の「アつべつきた幼稚園」と互いの保育を見合ったり、実践事例を基に話し合ったりしながら研究を進めてきました。2園合同で研究をすることで、自分たちの保育を俯瞰的に考えることができ、いろいろな考え方や方法に触れたり、同じような内容に自信をもったりしながら、保育(研究)を進めてくることができました。



〈環境構成について〉

・一人一人の思いを受け止め、探求する姿を支えながら、周りの幼児への刺激となるような環境をつかっていくことで友達とのつながりが生まれ、自分とは違う考えややり方を取入れながら遊びが広がったり、深まったりしていくことがわかってきた。

両園で共通してわかってきたこと



〈教師間の連携について〉

・教師間でそれぞれの幼児の育ちや、ねらいを話し合い、共有して幼児を支えていくことはもちろん、遊びの流れや変化に応じて、その場で教師が伝え合うことで、遊び(学び)が続いていくことがわかってきた。



〈白石区・厚別区研究実践園 研究アドバイザー〉
北翔大学 教育文化学部 教育学科 准教授 工藤 ゆかり先生

国の教育振興計画では、子ども自身と子どもを取り巻く社会のウェルビーイングの向上を目指しています。そのために保育現場では、子どもの主体性や創造性を育み、一人一人の自己実現を目指します。厚別区と白石区の「遊びを通じた幼児期の学び」研究を通して、一人一人の個別最適な学びの実現および友達と共に遊びを進めるための具体的な環境の構成が導き出されました。

今後も個人のウェルビーイングと仲間集団や園全体のウェルビーイングを一体的に向上させることが重要ですね。



※来年度も白石区と厚別区は同じ研究主題・副主題・重点をもち、今年度同様に、互いの園の保育参観をしたり、共に事例研究をしたりして、研究を進めてまいります。

